

令和5年度 事業報告

<前文>

今年度は4年目となった新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月8日から感染症法上の位置付けが5類の感染症に変更された。昨年度は年度当初、0歳児の入園数が4名と少なかったが、今年度は12名と定員が満たされた。又、3歳児の途中入園児が多い年であった。

行事は、通常の行事運営ができた。行事の内容では、行事の見直しを検討し「子ども主体の行事」が実行できた。保育全般でも「主体性」を取り入れた保育が実行できた。

又、業務のICT導入が進み、業務の簡素化・効率化が可能となる。これからも保育園での任務をしっかりと遂行しながら、次年度も子どもたちの成長・発達を手助けしていきたい。

1、施設事業運営

(1)児童の処遇 *当園では、2月中旬より次年度のクラスへ移行を行っている為、事業計画の年齢区分とは異なっております。

ア、園児クラス編成

令和6年3月31日現在

クラス名		年齢	園児数
就学前保育	年長児	5歳児	27名
縦割りクラス	つきぐみ	24名	4歳児 9名
			3歳児 8名
			2歳児 7名
	にじぐみ	24名	4歳児 8名
			3歳児 9名
			2歳児 7名
	ほしぐみ	23名	4歳児 7名
			3歳児 8名
			2歳児 8名
I. Cクラス	すみれ	0. 1歳児	9名 1歳6名 0歳3名
	たんぽぽ	0. 1歳児	9名 1歳6名 0歳3名
	ちゅーりっぷ	0. 1歳児	9名 1歳5名 0歳4名
ひよこの部屋	ひよこ	0歳児	0名
合計			125名

イ、健康管理

＜健康診断＞

毎月、看護師による「身体測定」を実施した。

年2回（4月19日、10月25日）囑託医の半田先生により健康診断を実施した。内診・眼瞼・耳の検診をおこなっていただく。診断結果は、その都度「健康カード」に記入、保護者確認後園に返却。アトピー皮膚炎、風邪等の他異常はない。当日欠席者は、月2回の0歳児検診時に検診する。全園児検診済みである。

＜歯科検診＞

年2回（6月6日・12月5日）土方クリニックの土方先生による検診を実施した。家庭で虫歯予防の意識が高くなってきている。幼児でも「虫歯0本」という子どもも多々いるが、全体を見ると、年齢が上がるにつれて虫歯の数も多くなってきている。虫歯の保有率が高いお子様は、看護師が直接保護者に声掛けし治療への意識づけを行っている。

虫歯の保有者には歯科医への受診を指導し、検診後の状況等、保護者に報告を促す。給食の食事などの関連も実践してきた。

食後の歯磨きは、新型コロナウイルス感染症拡大による飛沫感染が懸念され、園での歯磨きは行っていない。看護師会の報告により、市内の保育園でも歯磨きを中止している園がほとんどである。園での食後の歯磨きより、家庭での夜の仕上げ磨きが重要という結果が出ている。

- ・毎年行われている、武蔵村山市保健センターの保健師による「歯磨き指導」は中止。
- ・診断結果はその都度、「けんこうカード」に記載し家庭に渡し、捺印後に園へ返却。
- ・歯科検診時の欠席者は後日各家庭で医院へ検診を受け、結果報告をいただいている。未受診者には、個別に声掛けしているが、数名いまだ未受診である。

＜身体測定＞

毎日の看護師による視診・触診、毎月の身体測定を実施する。

毎月の身体測定（身長・体重）は、「けんこうカード」に記録して家庭に返却し、確認・捺印して保育園に返却を促す。

***次年度4月よりICTを利用し、保健関係の結果通知をウェブ上で閲覧できるようになる。**

＜毎月の「保健だより」の発信＞

毎月25日に発信の実施。保護者に子どもの健康面の意識付けを行った。又、感染症に関する感染予防の協力や、保育園としての対応を伝える。又、アプリメッセージにて、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等の感染予防の協力など周知した。

＜感染症の対応＞

今年度は、12月から1月にかけてインフルエンザの感染者が増加した。感染者が12名を超えた為、保健所に報告を行った。新型コロナウイルス感染症で数年インフルエンザの感染が少なく、免疫がなかった為と考えられる。

ウ、栄養管理

- 毎月の給食献立表や離乳食献立表をアプリメッセージにて配信。
- 給食内容やカロリー摂取量の把握。
- 「給食だより」を毎月発信する。[食]について様々な分野から伝えた。
- サンプルケースに毎日の給食の展示（幼児・乳児・離乳食）する事により、内容を把握するとともに、保護者が給食に関心を持ってもらう事が出来た。
- 給食会議（毎月）や離乳食会議の実施。保育現場との連携を図った。
- 栄養管理者の研修参加による知識の確立。今年度はリモートによる研修参加。

<食育>

- 「食育」についての「栄養指導」として毎月2回行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の為、ラスには入らず、食材等プリントにし幼児クラスの部屋に貼って、様々な形で保育と連携した栄養指導を行った。次年度は、給食担当者が直接クラスに入り栄養指導を行う。
- 和食を中心とした献立を作成し、四季を通して旬の食材を使用した給食を提供した。子ども達には本物の野菜を提示し、野菜の下処理（皮をむく・ちぎる等）を調理員と一緒にやり、実際に触り匂いを嗅ぎ、目で見て五感を刺激した。日本の食の文化を、子どもや保護者に理解していただいた。
- SDG'sの取り組みとして、幼児クラスではフードロス削減の意識を高める為、9月より「給食がんばりシート」を活用した。その結果好き嫌いも減り、完食する子どもが増えフードロスが減少した。次年度も行う予定。

<アレルギー児対応>

- アレルギー児対応として、保護者・看護師・栄養士・クラス担任の4者にて、年2回面談を実施しアレルギー除去食の献立を保護者に提出して「確認と承認の印」をいただいた。
- アレルギー対象児に対して、除去食と代替え食の提供の献立表を個人ごとに作成し発行した。保護者のアレルギー食に関しての関心も強くなり、負荷試験等も病院にて受けて下さり、保育園とご家庭との協力体制が出来ている。今年度はアレルギー対応（卵・小麦粉）児童2名が対応となるが1名は負荷試験の結果、解除となる。
- アレルギー児の誤食を防ぐため個別の名前入りのトレーを作成し、食の提供前に栄養士と保育士で「ダブルチェック」をしてから提供する事を徹底した。今年も誤食はなく、職員の意識が高まっている。

エ、保育

<乳児クラス>

- 0歳児

0歳児クラスにおいては個々の発達を重視し、一人ひとりの発達に応じた援助や対応を心がけ、担当性を導入し情緒の安定を図り、安定した生活ができるように環境（特に人的環境）に配慮し保育を行ってきた。朝はモンテッソーリ教具による「お仕事」を行う。又月齢の差が大きく生活に影響ある為、年齢ではなく発達に合った環境で生活できるよう配慮した。

- 1、2歳児の小さな共同生活（1、Cクラス）の環境の設定

乳児クラスでの小さな共同体。小さな集団で（10人～15人）、家庭に近い生活（食事・睡眠・遊び・着脱）を行う事を目的とする。お子様は小さな共同体で精神面の安定を図る。小さな共同体は3グループで構成し、生活面（排泄・言語）での成長・自立が見られ、1歳児特有のかみつきもほとんどなかった。

今年度は、朝のお仕事（モンテッソーリ教育）の環境を低月齢・中月齢・高月齢と、発達に応じた環境を整えた。

<幼児クラス>

「異年齢クラス」を基盤に生活を重視した保育を行う。異年齢の関わりの中で「個」を重視した「モンテッソーリ教育」を導入し、人格形成の援助を行う。又、「年齢別保育」も行い、同年齢の中で一緒に共感する喜び、仲間の中で伸びる力を養う。今年度は、主体性を重視した保育の取り組みを、園全体で導入を行った。

<モンテッソーリ教育の導入>

モンテッソーリ教育による「お仕事」も充実し、子どもの精神面での成長が著しい。

<春の親子遠足>

保護者自由参加とし、野山北公園に散歩遠足を実施した。ウィークデーにもかかわらずほとんどの保護者参加があった。春の新緑の中、親子で触れ合い楽しい遠足となった。

秋の遠足は子ども達の主体性を取り入れ、各クラスで話し合い、子ども達の行きたい場所での遠足となり、3クラス別々の場所の遠足は初めての実施である。子どもみみの遠足となった。

オ、安全管理

<交通安全>

園外に出る事も多いので、幼児クラスには園外での歩き方など自己認識できるような意識付けを行った。11月1日には、東大和警察署の警察官による「交通安全教室」を実施した。

<不審者侵入訓練>

東大和警察署による「不審者侵入訓練」を2月6日に実施した。実際に警察官が不審者となり、園内に入って職員が取り押さえるというシーンを実際に行う。第一に「子ども達の身を守る」ことを行った。訓練後には警察署の方からさすまたの使い方等指導を受け、最後に訓練の講評をいただいた。

<怪我や危険行為>

日々の小さな怪我に対して「軽傷報告」「ヒヤリハット」の書式を記入し、報告する事で、保育士の意識強化につなげた。

<安全点検>

「危機管理部門」による園内外の危険箇所の点検を行った。今年も危機管理マニュアルの「内容の検討と修正を行った。又、調理器具の安全点検を、月1回給食担当と共に行った。大切な命を預かる保育園として、これからも安全管理には十分注意をしていきたい。

カ、障がい児

支援の必要な子どもが年々増加し、5名の子どもに加配保育士がついている。

今年度は、東京小児療育病院のほか施設に5名通院している。内ダウン症1名、広汎性発達障害1名が「愛の手帳」を交付された。その他気になる子どもが年々増加しているのが現状である。対象となる子どもには保護者との面談（担当保育士・看護師・保護者）をして、状況を伝えている。市の巡回指導及び勉強会・東京小児療育病院へ通園児童の担当医が来園し、集団生活の様子を見ていただき、支援の方法やアドバイスなど指導を受けた。園では「支援会議」を行い、支援方法を園全体で共有し対応した。

（2）職員の処遇

ア、職員構成

園長	1名	調理師・給食補助	4名
主任保育士	1名	用務	1名
保育士	16名	非常勤保育士	21名
看護師	1名	嘱託医・歯科医師	2名
栄養士	1名		

- ・入職者…正職3名（保育士2名、用務員1名）、非常勤職員3名（栄養士1名、調理師1名、保育士1名）
- ・年度末退職者…正職1名（保育士）、非常勤職員2名（保育士）
- ・途中退職者…正職…0名、非常勤職員…1名

イ、健康管理

- ・35歳以上 総合多摩健康管理センターにて成人病検診の実施（6月）
- ・35歳以下 総合多摩健康管理センターにて検診の実施（6月）
- ・非常勤保育士 総合多摩健康管理センターにて検診の実施（11月）
- ・細菌検査 4月職員全員実施。給食担当・乳児調乳担当者の実施（毎月）
- ・個人的な健康面では、自己管理をしていただき、長期欠席者もなく良好。

ウ、職務分担

保育園という専門職の中、乳幼児期の児童の成長・発達を担う上で各職務での研鑽を積み、的確な指導ができるよう責務を行う。又、職員の指導を行う中で、リーダー職員はスーパーバイザー的存在となるよう、意識向上に努める。

<各行事>

各々の行事責任者を筆頭に担当者は、企画・運営・実施・行事後の反省と任務を果たした。各部署での協力により準備等の時間の確保など、日々の勤務時間内で終了するように、園内で声を掛けあい協力体制をつくり、園全体で行事が実行出来るようにした。又、年度初めに計画を立て早めの準備を行い、担当者の責務の負担の軽減にもつなげた。

行事もその年の特色を生かし実行できた。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策により、人数制限や内容を縮小実行したが、今年度は通常の行事が実行できた。

＜主体的保育＞

前年度同様「主体的保育」を進めていく。日々の保育や行事も「主体的な行事」の実践に向けて計画・実行してきた。運動会では年長児の「箱タワー」の競技内容により、空き箱の協力を家庭に振り、保育園と子ども・家庭との三者で作り上げた競技となった。子どもが主体となり「どうしたら高く積めるのか？」を自らの体験の中で、失敗・話し合い・実行を繰り返してきた競技となった。運動会までの過程では、主体性を取り入れた練習の様子を、ドキュメンテーションで発信し、保護者の理解を得た。

工、職員会議

月1回午後1時30分より3時までの午睡の時間を利用して実施。参加者は、園長・副園長・主任・副主任・各部署リーダー・他職員2名。毎月、司会と書記は当番制とする。司会者は2週間前に職員会議次第を参加者に提示し、議題を集約する。各部署は議題に対して討議した内容を、職員会議で発表し、審議する。

その他は、行事担当者からの報告・行事反省・危機管理部門からの「避難訓練の実施報告」・隔月で部門報告を行った。又、給食アレルギー会議も行う。時間内に終了しない場合は、午後16時より二部を行った。

オ、研修

自分自身のスキルを高める為に、様々な研修に参加する。研修参加により、自分の知識を高め日々の仕事に自信と余裕を生みだしている。今年度は、新型コロナウイルス感染症により、外部での研修はほとんどなかった。リモートによる研修が数回実施され、看護師・保育士が参加した。

カ、部門の活動

4つの部門で、年間目標に沿った活動を行った。

＜危機管理部門＞

- ・園内外の危険個所の点検、調理器具の2か月に一回の点検。
- ・毎月の避難訓練の実施。様々なシーンを想定しての訓練ができた（避難訓練計画書）。
- ・6月13日、北多摩西部消防署に来園していただき、「自衛消防訓練」を実施。
- ・6月14日、1月29日、北多摩西部消防署職員による「救命救急」の訓練を受ける。
- ・9月1日 防災引き取り訓練の実施。
- ・R6年2月23日 東大和市警察署に来園していただき「不審者侵入訓練」の実施。
- ・災害時に必要な備品の整備と、避難用の子ども靴の確認と寄付を募った。

＜PR部門＞

- ・職員へのモンテッソーリ教育への基本姿勢の理解を深める為に「モンテッソーリ通信」を配信した。
- ・保護者へのモンテッソーリ教育の理解は、保育参観・誕生日会など保護者が参加する機会に保育士がアピールしていけるような声掛けや、教具の提供を行って理解を深めた。モンテッソーリに関する本の貸し出しを行った（年6回）。
- ・モンテッソーリ教育を地域の人知ってもらう為に、あゆみ保育園をアピールするために、支

援センターへ出向きPRする（年2回）。給食職員は栄養指導など・保育士はモンテッソーリ教育の紹介やエプロンシアターを見てもらう。

- 市の広報・近隣の子育てセンター・支援センターに、園の情報パンフレットの配布など行った。
- 毎月担当者が園のホームページのブログを更新する。

<環境整備>

- 保育園内外の環境・保育現場の環境の整備・清掃を行った。園児が毎日散歩に出る遊歩道のごみや犬の糞の清掃を行う。近隣の住民にも好評。
- 日常的に行いえない場所（舞台下など）の清掃と、床ワックスがけを行った。
- 壊れた玩具の点検。
- 一斉保育で使用する玩具の消毒や洗浄、塗り絵の準備を行った。

<労務管理>

- 毎月の勤務表の作成や、夏季休暇の調整と休暇表の作成を行った。
- 月1回の有給休暇取得の実践。
- 休憩時間の確保が出来るように調整し、環境を整え実践した。
- 毎週水曜日NO残業デーの呼びかけ。次年度は金曜日も取り入れた。
- 毎月、格言や明言をトイレに掲示し、職員の意識向上を図った。
- 園庭遊び、プール遊び、散歩、一斉保育のマニュアルを修正し回覧した。

*4つの部門が、以上の活動を行う事により、職員の意識改革に繋がり、自分たちの手で「働きやすい職場づくり」を実践した。

キ、福利厚生

今年度は、立川ソラノホテルにて食事会を開催した。新型コロナウイルス感染症対策で食事会は中止になっていたが、徐々に職員同士の交流が持てた。日々忙しい業務の中で、ゆっくと楽しい時間が持てた。

ク、事業計画会議と総括

<事業計画会議…令和5年4月1日>

正職員、非常勤職員計24名出席する。参加者は正職員が全員、非常勤は代表者が3名でホールにて開催。新型コロナウイルス感染症対策の為、人数制限を行った。年度初めの為、各部署各部門の一年間の取り組みを発表する。今年度はSDG'sの取り組みの一環で資料は配布せず、パソコンを持ち寄り各部署で打ち込んだ資料を、閲覧しながらの会議となった。

<総括…令和6年2月10日>

本来全職員が参加の予定だったが、職員がインフルエンザに数名感染したり、体調不良者が出たため、感染拡大を阻止するために延期とする。代わりとして、2月21日（水）、2月22日（木）の二日間で実施された。各部署の1年間の反省と課題を上げ、そのことに対して意見や質問を事前に回収し、総括当日に質疑応答に対して各部署から回答に応じた。次年度への方向性が示された。

(3)保護者参加行事

ア、保護者会

幼児クラス…4月12日（水）、乳児クラス…4月25日（火）で実施する。園長挨拶・保健・給食から新年度に向けての挨拶を行った。そして各部署としては、参加して良かったと思える保護者会を心掛け、お母さまのコミュニケーションを目的として、グループをつくり、身近な話題を提案し、会話が盛り上がった。お母さん同士の和やかなコミュニケーションの場となった。

イ、保育参加・参観・個人面談

幼児クラス…6月5日～16日までの2週間行う。1日3家庭を目安に参観者を募った。参観61家庭、面談は52家庭が参加となる。3歳児は全員面談を行い、4・5歳児は希望者のみの面談とした。ウイークデーにも関わらず多数のご家庭が参加して下さい、家庭と保育園と協力し子育てができることと思う。

<就学前面談>

年長児の「就学前面談」…10月16日～28日の期間に全員実施。子どもの現在の様子を伝え、保護者の相談などを共有し、就学に備えた。

<乳児クラスの保育参加>

・ICクラス…10月2日～27日　・ひよこ…10月10日から27日

保育参加・面談を行う。参加日時は3週間を目安に希望日を募り、保護者が参加しやすいように日程を組む。1日各グループ1名の参加。保護者も保育の中に入っただき、お子様の日常の様子を見ていただいた。希望者には給食を食していただき、面談後に降園となる。多数の参加者があり、園と家庭とで子育てを共有することができた。

ウ、おやじの会

父親有志による「おやじの会」は、年間の活動として、園行事への参加協力「あゆみ祭り」では、オヤジの会会長の挨拶や第二部の「子どもフェスタ」の模擬店の縦鼻や当日の運営を行っていただいた。又盆踊りの太鼓打ちを行っていただいた。又「クリスマス会のサンタクロース役」「卒園式の保護者代表の挨拶」などを行っていただく。その他おやじの会独自の遊びの提供（お散歩イベント・凧揚げイベントなど）を土曜日に行う。

保育園と保護者父親との大切な絆である。普段仕事で忙しい父親が、子どもと保育園・保護者との接点を作っている

2、施設事業管理

(1) 事務関係

ア、会計と管理事務

- ・小口現金…帳簿会計により行う
- ・施設と本部会計…コンピューターによる会計

イ、児童処遇事務（保育・給食・健康管理）

ウ、ICT化によるタブレット入力と各種お便りの配信

- ・保育…年間、月指導計画、週案、日誌の記入
 - 保育経過記録の提出 5歳…3回 4、3、2歳…4回
 - 生活習慣記録の提出 1歳…6回 0歳…毎月
 - 個人記録の記入 乳児 0、1歳児
 - 連絡帳の記入 0、1、2歳児（毎日） 1月より電子連絡帳を導入
- ・クラスだより 乳児、幼児…毎月
- ・園だより…毎月（毎月の行事内容、お知らせ）
- ・給食…給食献立表、離乳食献立表、給食だより発行、アレルギー児献立表（毎月）
- ・保健…保健だよりの発行
 - 毎月の身長・体重—「健康の記録に記載」
 - 春と秋の健康診断の実施、歯科検診の実施
 - 看護師による保健指導（歯磨き指導、手洗い指導、トイレ指導）の実施

（2）設備関係

ア、備品関係

<保育用品購入>

- ・モンテッソーリ教具、幼児用机

<給食品購入>

- ・日々の給食に必要な食材の購入。

<環境設備>

- ・保育園室内の床の清掃とワックス塗
- ・エアコンのクリーニング
- ・パソコンの購入

3、災害対策

- ・「危機管理部門」にて、子どもの命と安全を守る為、「衣、食、住」の様々な方向からの対応を行う。「避難訓練」を保育園の開所時間内の様々な時間帯を想定して訓練を実施した。保護者にも一緒に参加していただく訓練（朝、夕の送迎時）や、二次避難訓練（原山運動場）を実施した。又、園外の訓練では、スマホアプリを利用して周知し、訓練に繋がった。
- ・東大和警察に依頼しての訓練「不審者侵入訓練」の実施。
- ・非常事態の対応として、お子様の衣類や靴を寄付していただき、防災倉庫に保管している。
- ・9月の「災害時引き取り訓練」では、非常事態を想定して、給食担当者が園庭に五徳を設置しガスコンロを使用して煮炊きをし、非常食を提供した。
- ・施設の外部に5か所の防犯カメラの設置。ピタッとカードによる、入退出（登園時・降園時）
- ・園社内の保育室に、見守りカメラの設置

4. 会計収支予算書・収支決算書

- ・別紙のとおりです

5. 添付書類

- ・収支計算書、決算書

以上